

園芸学科通信

第21号



レイカディア大学・米原校

選択講座・校外学習

■ 巨木と名木を訪ねる現地見学
講師：田上 知氏

園芸学科2年、後期選択講座の校外学習「巨木・名木の現地見学」が実施されました。6月5日(火曜日)は、田上知講師による「巨木・名木を訪ねる」をテーマに、長浜市高月町周辺で受講しました。この地域は県内有数の巨木、名木が多く残っており有名です。39期生はいつもの通り自動車の相乗りで北陸線高月駅東口に集合しました。駅前で田上講師の概要説明があった後、再び自動車で相乗りし、最初の訪問地「西物部の野上ケヤキ」を目指しました。



西物部：野神ケヤキ



高月町森本：工場横のムクの木

②横山神社のシノキ(高月町横山)境内に立つ2本の御神木で、樹高10メートルと12メートル、幹回りいずれも4メートルくらい。推定樹齢300年の大木です。支柱等により大切に保護されており、周りの樹々を抑えて神々しい雰囲気を醸し出しています。

③唐川の野大神ケヤキ平地に突然そびえ立つ、通称「本杉」と呼ばれる、樹高20メートル、推定樹齢400年と云われ、宮本武蔵の口歌に使われた名木です。近年衰弱が見られ数回の保全活動が行われています。



黒田：アカガシ

④黒田のアカガシ黒田集落の野神で、樹高15メートル、幹周径6.9メートル、樹齢400年の新日本名木百選に選定されている。集落を通り、黙書対策ネットを開けて山分け入ると圧倒されるような樹木に「一見の価値あり、心に残る名木でした。」



唐川：野大神スギ



横山：シノキ

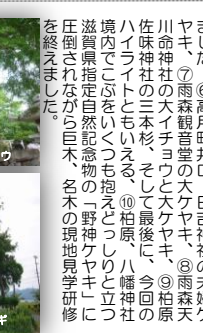
⑤雨森芳洲庵の根上がりケヤキ午前5時の見学を終え、この後は雨森にある「雨森芳洲庵」に場所を移し、歴史、平井先生から湖北の村からケヤキが見えること、その内容で、雨森芳洲の人物や朝鮮通信使絵巻の解説を受けた講演をしていただきました。また、巨木については、田上先生から、門近(トモ)の樹齢200年、樹高20メートル、根上がりケヤキむらやな姿の根張りが見事、根まわりがケヤキの説明を受けました。



雨森：雨森芳洲庵の根上がりケヤキ



約原：野神ケヤキ



雨森：大イチョウ



井口：夫婦ケヤキ



約原：三本スギ

伊吹山山頂へのこの会事務局から、伊吹山山頂区域(西洋タンポポの除草)に繁殖して固有種の「フキタンポポ」が絶滅の危機に瀕している。そのため、西洋タンポポを駆除するためのボランティアを依頼をされていますが、その除草作業に園芸学科生の有志数名が参加しました。

6月1日、伊吹山の里文化センターに集合した参加者は、主催者が用意したバスに乗り、伊吹山スカイテラス駐車場に着きました。その後、準備された作業用具を持って山頂域に移動、登山道には、シカが現れたり、お花畑には、トモソウ、コキンバエ、マムシグサなどが咲き乱れていました。割り当てられた場所を、天敵ともいえる西洋タンポポの除草を始めました。晴天に恵まれた山頂で約5時間、駆除したタンポポは90キロを超え、伊吹山固有種の保護に貢献できました。

午後5時、巨木、名木を訪ねるから所訪問しました。⑥高月町井口、日吉福祉の夫婦ケヤキ、⑦雨森観音堂大ケヤキ、⑧雨森天川命神社の大イチョウと大ケヤキ、⑨約原佐味神社の三本杉、そして最後は、今回のハイライトともいえる、⑩和原八幡神社境内で「かえりくも」の樹齢200年と云う立派な樹木を巡る。この樹木は、滋賀県指定自然記念物の「野神ケヤキ」に任命されながら巨木、名木の現地見学研修を終えました。

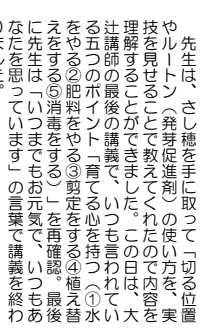
今日最初の選択講座は、6月7日に受講しました。講師は、6月5日に実施した選択講座、校外学習「巨木、名木を訪ねる」に引き続き、田上知氏で、「樹木病害虫の診断と防除について」をテキストとパワーポイントを使っての講義でした。

①植物の種類と病原菌、害虫との関係花や庭木などの植物を侵す病原菌としてウィルスは約300種、細菌も300種くらいあり、糸状菌(カビ)については、4000種以上ある。害虫は昆虫、ダニ類が約3000種、線虫が100種を超え、ナメクジやタニシなどが300種以上あること。

②農業に類しない防除の基本枯れた植物は、微生物(細菌・カビ)によって分解されて土に戻る。分解された窒素、リン酸、カリなどの成分を肥料として光合成を行い、食料などの生産を行う。(生態系)この時、微生物の感染を受けて病気になるので、生態系を考慮して病原菌や害虫が活動できない生育環境にしなければならぬ。

③病原菌、害虫の活動を抑える植物が病原菌や害虫に侵されるのは、それらが活動し繁殖しやすい状態になった時で、密植した枝葉が環境(天候、気温、湿度、土壌の条件)や生育状況が組み合わさるため病気が発生する。害虫の発生サイクルを知り、タイミングよくタイミンよく適切な対策を講ずることが必要である。その後、病気や害虫の種類と具体的な症状、その対応方法の説明を受けました。また、公開講座であったこの講義は、今秋入学予定の5名の聴講生が熱心に耳を傾け授業内容を体験していました。

先生は、さし穂を手に取って「一切の位置やルート(針葉促進剤)の使い方や、実技を見せることで教えた。この日は、大辻講師の最後の講義で、心も晴れわたる。五つのポイント「育てる心を持つ」「水をやる」「肥料をやる」「剪定をする」「植え替えをする」の順番をやる」を再確認。最後は先生は「いつもお元気ですか?」と笑顔で話を聞いています。この言葉で講義を終わりました。



6月19日の選択講座は、「盆栽の育て方と増やし方」で、講師は大辻敏雄氏でした。取り木・さし芽で増やす内容で、実際に育てておられる盆栽を持参し、実物を見ながら実技は大変参考になりました。また、さし芽については、アシサイ・イチジク・山椒などの7種類のさし穂や用土やポットなどの材料を生徒の数だけ用意していただきました。

授業は、バードコール(鳥の声を出す道具の事、鳥笛とも呼ばれ、木の枝とホルンを合わせて作る。木片と金属棒をすり合わせた時に出る音が小鳥の鳴き声に似ている。この音で鳥が集まってくるのを狙い、この制作を行い、その後は、周辺の樹木にいる害虫や病原菌の観察を行いました。

編集後記
平成30年6月30日発行の「第39期園芸学科通信第21号」をお読みください。
今月の記事は、田上講師の校外学習「巨木・名木を訪ねる」湖北の多くの巨木と感動しました。また、大辻講師には、さし芽や取り木で増やすと林や森にできる巨木もなる、そんな森に入ると鳥の声が聞こえます。バードコールで呼び寄せるところまで楽しんで、ますます森や巨木が身近に感じ興味を持っていきます。



バードコールの製作と樹木の観察